

運用資産の構成状況(令和4年6月末)

建設業退職金共済事業等勘定 特別給付経理

当月末の運用資産構成状況は、次のとおりである。

(単位：百万円)

資産区分	基本ポートフォリオ	資産額	資産構成比
国内債券	84.5%	25,658	84.8%
国内株式	2.8%	882	2.9%
外国債券	6.9%	1,969	6.5%
外国株式	5.8%	1,761	5.8%
合計	100.0%	30,269	100.0%

- (注) 1. 国内債券の内、満期保有目的の債券、預金及び生命保険資産の資産額は、帳簿価額である。
 2. 包括信託の資産額は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に建退共資産（特別給付経理）の保有口数を乗じて算出した額である。
 3. 包括信託の会計文書の勘定科目名は金銭信託である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

うち委託運用部分と乖離許容幅※

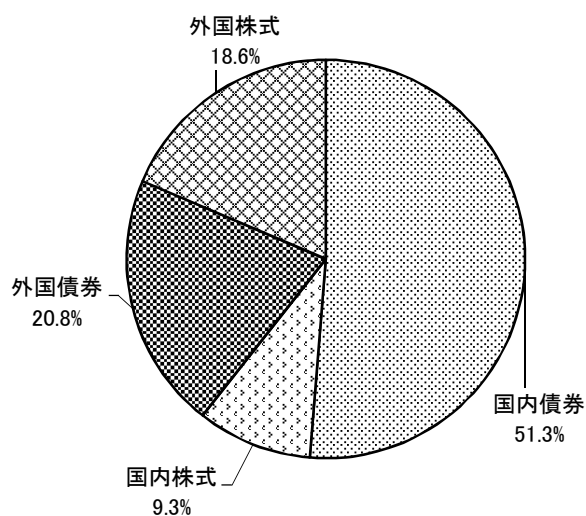
(単位：百万円)

資産区分	基本ポートフォリオ	資産額	資産構成比	乖離許容幅	乖離状況
国内債券	50.7%	4,850	51.3%	±5.3%	0.6%
国内株式	9.0%	882	9.3%	±2.4%	0.3%
外国債券	22.0%	1,969	20.8%	±2.4%	△ 1.2%
外国株式	18.3%	1,761	18.6%	±5.3%	0.3%
計	100.0%	9,462	100.0%	—	—

※令和4年4月に移行した新基本ポートフォリオでは、自家運用部分は流動性確保を目的とした簿価評価資産、委託運用部分は利回り獲得を目的とした時価評価資産、という役割や評価方法の違いに鑑みて、基本ポートフォリオの効率性を維持するための乖離許容幅は、委託運用部分のみに設定した。

※単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

委託運用部分における資産構成比



基本ポートフォリオ乖離状況

